研究実施のお知らせ

2026 年 9 月 17 日 ver.1.1

研究課題名

術後レミフェンタニル持続投与が術後疼痛および回復に与える影響：顎骨切り術後患者における後ろ向き検討

研究の対象となる方

2024 年 1 月から 2026 年 8 月の間に島根大学医学部附属病院で顎骨切り術を受け、術後に集中治療室で人工呼吸管理を受けられた方

研究の目的・意義

顎変形症に対する顎骨切り術後には疼痛や顔面・咽頭部の腫脹を伴います。手術にもよりますが、術後すぐに気管挿管チューブを抜去すると、気道が閉塞して呼吸不全になってしまう場合もあります。こうした可能性が高い患者さんでは、安全な術後管理のために手術終了後は集中治療室で一晩人工呼吸管理を行い、翌日に気道の評価を行ってから気管挿管チューブを抜去して、人工呼吸を離脱することとしています。

気管挿管・人工呼吸管理中には、フェンタニルやレミフェンタニルといった麻薬性鎮痛薬を使用します。従来はフェンタニルが最も使用されてきましたが、薬剤の供給制限などの影響で、2025 年頃からより作用時間の短いレミフェンタニルを使用する機会が増えました。人工呼吸管理中のレミフェンタニル投与は、様々な手術や内科疾患の患者さんで行われていますが、顎骨切り術に限定して術後の疼痛や回復状況について調査した研究はほとんどありません。そこで本研究では、顎骨切り術後に集中治療室で人工呼吸管理を受けた方を対象として、術後レミフェンタニル持続投与を行った患者さんと従来通りのフェンタニル持続投与を行った患者さんとの間で、術後疼痛や回復状況に違いがあるかどうか、比較検討したいと思います。この調査結果が、今後顎骨切り術を受ける患者さんの術後管理の質の向上につながることを期待しています。

研究の方法

対象になる方のカルテと麻酔記録から以下のデータを収集します。

1) 患者背景：年齢、性別、身長、体重、ASA-PS (American Society of Anesthesiologists physical status)
2) 手術・麻酔に関する情報：診断名、手術術式、手術時間、麻酔時間、使用した麻酔薬と使用量、輸液量、輸血量、出血量、尿量、水分出納

3) 集中治療室入室中の情報：術後フェンタニル・レミフェンタニル使用量と最大投与流量、鎮静薬（プロポフォール・デクスメデトミジン）の使用量と最大投与流量、鎮静度、鎮静終了から人工呼吸離脱までの時間、人工呼吸管理中の呼吸非同調の有無、初回従命確認時間、集中治療室滞在時間、低血圧・徐脈の有無、昇圧剤・降圧剤の使用の有無
4) 術後 3 日目までの情報：使用した鎮痛剤の種類・量、疼痛スコア、食事摂取量、悪心嘔吐の有無、制吐剤使用の有無、尿道カテーテル抜去日
5) 術後在院日数、術後合併症の有無

以上の情報について、術後にレミフェンタニル持続投与を行った方と、行わなかった方（フェンタニルの持続投与を行った症例）との間で比較検討したいと思います。

収集したデータは、島根大学医学部麻酔科学講座の外部から用意にアクセスできない PC に保管します。PC にはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限します。

この研究に関するデータ等は、個人を特定できないように記号化した番号により管理します。あなたの個人情報を個人が特定できる形で使用することはありません。また、お名前などのリストは収集データとは別に、施錠可能な場所で研究責任者が適切に保管します。外部への持ち出しは行いません。

研究の期間

2026 年 10 月（研究許可後）～2027 年 9 月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院麻酔科学講座　　二階　哲朗

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2027 年 5 月までにお願いいたします。それ以降は

解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：
島根大学医学部附属病院麻酔科学講座　二階　哲朗
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1
電話　0853-20-2295　　FAX　0853-20-2292